

平成27年6月4日(木) 第5校時

児童数 10名
 指導者 矢野間明子
 場所 図工室

- 1 題材名 にぎって、ひねって、ひらめいて
 A表現(2)ア、イ、ウ
 B鑑賞(1)ア、イ

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、事前のアンケートの結果9人が図工が好きであり、1人がどちらかと言えば好きである。好きな理由としては、「アイディアが浮かぶから」が5人、「絵の具や道具がうまくつかえるから」が4人である。児童は3年生になり、『カラフルねん土のお店へようこそ』の学習を通して、紙粘土で形や色を工夫しながら、使って楽しいものや生活に使えるものなどをつくる活動をしてきた。紙粘土に絵の具を混ぜ、できた色に驚いたり、自分の思い通りの色になると友達に見せたりするなどいろいろ試しながら、カラフルな粘土を作っていた。そのうち、棒にしたり、ねじったり、切ったり、丸めたり、型抜きしたりしながら、イメージしたものを形づくっていた。さらに、ペットボトルに粘土を付けて入れ物にしたり、粘土にひもをつけたり、ビーズやスパンコールの飾りをつけたりするなど、材料を工夫して、次々と楽しい作品ができた。紙粘土の手応えを味わいながら、思い通りに形が変化していく感じを楽しむ姿が見られるようになっている。その一方で、1つの色や形が仕上がると手が止まってしまう、次の表現に進めなかったり、発想が広がらなかったりする児童もいる。



(2) 題材について

本題材は、「ねん土で作り方を試したり、見つけたりして、表したい世界を思いつく」ことを通して、試したり、見つけたり、考えたりして、思いつく力を培うことをねらいとしている。粘土の感触を味わいながら、粘土を手でねじったり、穴を開けたり、伸ばしたりするなどのさまざまな操作をして、見つけた形から表したい「世界」を思いついてつくっていく。また、粘土の特性である可塑性を生かして、一度つくったものも、創作活動を十分にしながら、自分のお気に入りの形や空間、雰囲気につくりかえることができる題材である。

なお、3年生の本題材では、粘土そのものに親しみ、手だけで活動を進めていくが、4年生では、粘土べらを使ったり、芯材を入れたりする活動につなげていく。

(3) 本題材を指導するに当たって

指導に当たっては、材料である粘土の量感や質感、重さを手で感じ取り、にぎる、ひねる、ひっかく、くっつけるなどの活動を十分に楽しめるようにする。粘土べらなどの道具は使わず、手だけで活動を進める中で、手のひらを通して感じる粘土特有の感触の心地よさを味わったり、可塑性がもたらす造形の楽しさに気づくことができるようにする。指だけでなく、

手のひらや手の甲、爪など手のさまざまな部分を使い、手の動かし方を試しながら新しい形を発見できるようにしていきたい。

導入においては、個の活動として、粘土の塊と出会い、手や指の感触を確かめたり、力の具合を体全身で挑ませたりして、粘土の粘りや柔らかさを知り、粘土と十分に親しめるようにする。展開の始めには、プレ題材として、クラス一斉に、全員で粘土をにぎったり、ひねったり、穴を開けたりする。行為することの楽しさを十分に味わわせることで、粘土の特性である可塑性を、児童自ら、気づくことができる考える。展開の流れの中では、「お気に入りの表し方はどれか」「試してみたいことはあるか」など児童と対話し、思いを引き出したり、友だちの表し方を見合ったしながら意欲を高め、児童が試行錯誤し、柔軟に発想できるようにしていきたい。「いいこと思いついた」と自信をもって自分の思いを試したり、表したりできるようにしていく。児童が心から満足できるような材料との出会いや扱い方、場の設定、言葉かけを工夫しながら、何度でもやり直すことができる安心感をきっかけとし、のびのびとした豊かな発想を生み出すことができるようにしていきたい。

鑑賞に関しては、つくり出した形や表し方のよさやおもしろさ、違いを話し合いながら、感じたことを友だちに伝え合う楽しさを味わわせたい。

3 研究主題との関わり

研究主題 「感性を働かせ、自ら学び、伝え合う子の育成」

副 題 図画工作における児童の思考力・判断力・表現力を育む指導方法の工夫

仮説1 「導入」の工夫や「展開」において豊富な材料・技法を体験させることにより児童は、感性を働かせ、自ら学ぶことができるであろう。

手立て ①教科書を効果的に活用して、課題をわかりやすくおさえられるように工夫し、興味・関心を高め、児童が活動の見通しを持てるようにする。
②導入時は題材の最初の時間は15分以内、その他は5分以内とし、製作の時間を十分に確保する。
③1人約1kgの粘土を用意し、導入時に、体全身で「しっかり練る」ことで、材料と向き合えるようにする。
④「展開」において、手を使って、「ひねる」「にぎる」「穴をあける」などの活動に取り組み、粘土の特性の可塑性に気づき、発想のきっかけになるようにする。

仮説2 「まとめ」及び作品提示の工夫や「展開」において個に応じた支援を行うことにより、児童は感性を働かせ伝え合う力を高めることができるであろう。

手立て ①活動の過程で鑑賞を行うことで、試して見つけた工夫を学び合う機会を増やす。
②意図的な言葉かけをすることで、児童の思いを生かす支援をする。
③協力して時間内に片付けをさせる。
④作品提示の工夫をする。

※「4つの実践と3減運動」との関わり

- ・授業中のあいさつ、返事の励行
- ・鑑賞での友達との認め合い

4 目標及び評価規準

(1) 目標

「粘土でつくり方を試したり、見つけたりして、表したい世界を思いつく」ことを通して、試したり、見つけたり、考えたりして、思いつく力を培う。

(2) 本題材における〔共通事項〕

自分の感覚や手を十分に働かせて粘土をさまざまに操作しながら、感触や形の組み合わせの感じをとらえ、これをもとに表したいイメージをもつ。

(3) 本題材における評価規準〔◆「努力を要する」と判断される状況（C）の児童への支援〕

※アンダーラインは〔共通事項〕に関連した内容を示す。

造形への関心・意欲・態度	発想や想像の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
手や体で粘土に働きかけ、粘土の感触を味わい、自分の感覚を働かせながら粘土とかかわることに興味や関心をもっている。	<u>粘土の感触や働きかけてできた形やテクスチャーからイメージを広げ、表したい世界や場所などを思いつく。</u>	握る、ひねる、引っかくなど、手のさまざまな部分を使い、手の動かし方を工夫して新しい形を発見している。	友だちや自分のよさや違いに気づき、互いに認め合っている。
◆粘土をたたいたり、ひねったりしながら、十分に感触を楽しむように励ましの言葉をかけたり、教師が実際にやって見せたりする。	◆つくり変えてよいことを伝え、表したい世界や場所のヒントになる言葉がけをしたり、対話しながら、思いを引き出す。	◆にぎったり、ひねったりするなどのいろいろな表し方を一緒に行う。	◆自分の活動を振り返るよう声をかけたり自分や友だちの表し方のおもしろさや感じの違いに、目を向けさせる。

5 指導計画・評価計画（2時間扱い）

時間	学習活動	関	発	創	鑑	評価方法
①	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">提案1：ねん土と友だちになろう</div> <p>○粘土に触れる。 ○参考作品を見る。教</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">提案2：ねん土となかよくなるろう</div> <p>○プレ題材を体験する。 ○つくったり、やり直したりする中で、思いついたことを試し、自分が表現したい形を見つける。 ○粘土をにぎったり、ねじったり、穴を開けたりひっぱったりして、表し方を工夫する。</p>	○				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">関 行動観察・表情・発言</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">関 行動観察・表情・表現・発言</div>
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">提案3：ねん土で遊ぼう、楽しもう</div> <p>○見つけた形に物語をもたせ、自分だけの世界を考え、表現する。 ○大きい形から、細かい表し方を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">提案4：ようこそ、ねん土の世界へ</div> <p>○自分や友達の表し方のよさを見つけたり、話し合ったりする。</p>		○	○		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">発 行動観察・表現・発言</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">創 行動観察・表現・発言</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">○ 鑑 行動観察・発言・発表</div>

6 本時の学習（本時 1 / 2 時）

(1) 目標

・手や体全身で粘土を自由に触り、感触を味わう活動を楽しんでいる。

【関】

(2) 準備


- 教師 教科書、写真、掲示資料、時計板、粘土、すべり止め、タオル、ビニール袋、ラップフィルム、バケツ、パソコン、モニター、カメラ
- 児童 粘土板、タオル

(3) 展開

時間	学習活動 ※ 教 マークは教科書を 活用する場面	学習内容	○指導上の留意展（配慮・手立て） ◎評価 [共] 共通事項に係る内容 ◇十分満足できる状況 ◆努力を要する児童への手立て
導入 10 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">提案1：ねん土と友だちになろう</div> <p>1 題材を知る。 【仮説1 手立て②】</p> <p>2 参考作品を見ながら、思ったこと、気づいたことを話し合う。 【仮説1 手立て①】 【仮説2 手立て④】 教</p> <p>3 見通しをもつ。</p> <p>4 粘土を練る。 【仮説1 手立て③】</p>	<p>○イメージのもち方</p> <p>○計画的な学習活動</p> <p>○粘土の質感・特徴</p>	<p>○題材名を黒板に掲示する。</p> <p>○写真を活用し、作品のよさやおもしろさ、工夫などに触れさせ、本題材への興味・関心を高める。</p> <p>○ねん土を提示し、今までの経験や知っていることなどを自由に話せるようにする。</p> <p>○本時の流れを黒板に掲示する。</p> <p>○児童を1カ所に集めて、練り方を示す。</p> <p>○ねん土板の下に敷く、滑り止めを用意する。</p> <p>○手を拭いたり、乾燥を防ぐために、ぬれタオルを用意しておく。</p> <p>○粘土はそのままにしておくこと、乾いてしまうことを伝え、使わない粘土には、ぬれタオルをかぶせておくことを伝える。</p>
展開 30 分	<p>5 プレ題材を体験する。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> にぎる ひねる あなをあける </div> <p>【仮説1 手立て④】</p>	<p>○粘土の扱い方</p>	<p>○全員で「握る」「ひねる」「穴を開ける」活動を一斉に行う。</p> <p>○出来映えにこだわらず、ねん土を思い通りの形にする楽しさを味わえるような声かけをする。</p> <p>○粘土と関わる児童の反応を皆で共有できるように紹介したり、話し合ったりできるようにする。</p>

		<p>◎手や体全身で粘土を自由に触り、感触を味わう活動を楽しんでいる。</p> <p style="text-align: right;">【関】</p> <p>◇体全体を働かせながら、ねん土を自由に触り、感触を味わいながら、いろいろな表し方を進んで試している。</p> <p>◆ねん土をかたまりで抱えてみたり、眺めてみたりするなど、納得がいくまで十分に触るようにする。一緒に考えたり、話したりしながら、やってみたいと思えるように支援する。</p>
<p>提案2：ねん土となかよくなるう</p>		
<p>6 思いついたことをいろいろ試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくったり、やり直したりする中で、自分が表現したい形を見つける。 ・粘土をねじったり、つまんだり、ひっぱったりして形にしていく。 <p>【仮説1 手立て④】 【仮説2 手立て②】</p>	<p>○ねん土の表し方の工夫</p> <p>・ひっかく ・ちぎる ・丸める ・のぼす ・つなぐ ・組み合わせる</p>	<p>○ねん土の扱い方を児童がいつでも確認できるように掲示物で示す。</p> <p>○楽しい気分になるよう音楽を流し、場の雰囲気や緊張をほぐしたり、イメージが浮かんだりできるようにする。</p> <p>○児童の様子、表したねん土などを互いに共有できるように、写真に撮り、最後にモニターで写し、多様な表現があることを知らせ、次時に生かす。</p>
<p>まとめ 5分</p> <p>7 本時のまとめと次時の活動を知る。</p> <p>8 片付けをする。 【仮説2 手立て③】</p>		<p>○次時は、ねん土の世界に物語を考えながら、作っていくことを伝える。</p> <p>○作品が乾燥しないように、ぬれタオルをかけて、ビニール袋（ラップフィルム）をかぶせる。</p> <p>○板や手についたねん土はバケツの中の水で落とすようにする。</p> <p>○時間内に片付けできるようにする。</p>

7 板書計画



にぎって、ひねって、ひらめいて

ねん土と友だちになろう

ねん土となかよくなろう

にぎる
ひねる
穴をあける

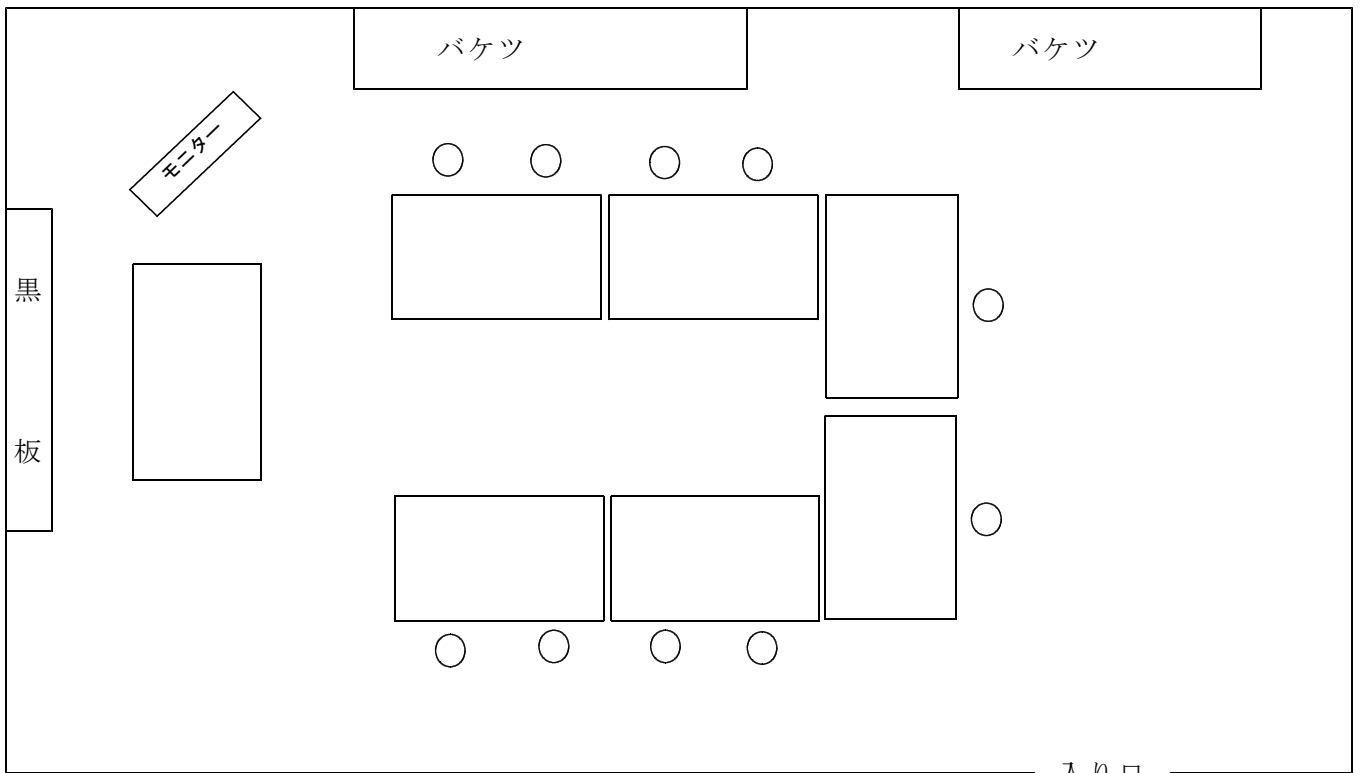
のぼす
ちぎる
丸める

6/4	1	①ねん土と友だちになろう ②ねん土となかよくなろう
6/8	2	③ねん土で遊ぼう、楽しもう ④ようこそ、ねん土の世界へ

ねん土とのやくそく

- ねん土板の下にすべり止めをしよう
- ぬれタオルで手をふこう
- つかわないねん土には、ぬれタオルをかぶせておこう
- ねん土は、バケツの水で洗おう

8 場の設定 (図工室)



○場の設定の工夫

- ・ 全員の活動が見合えるような席の配置にする。

9 評価シート

観点	造形への関心・意欲・態度	気付いた点
評価規準 氏名	手や体全身で粘土を自由に触り、感触を味わう活動を楽しんでいる。	
青木 伶		
石井禾那子		
川島 優那		
黒柳 圭史		
田中 健慎		
樽見 姫奈		
中坪 百優		
間宮 望結		
三木万由子		
吉成 拓己		

* ◎○△、ABC等、評価にご活用ください。